

2024年2月18日 説教「主のことばは広まり」

使徒の働き 19章 10～20節

第三回伝道旅行が始まり、パウロはガラテヤ地方からフルギヤへと入り、奥地を通って、エペソに辿り着きました。そこは、まさに神のみこころによって導かれた地でした。エペソのユダヤ人会堂において、ユダヤ人と議論を交わし、キリスを伝えました。しかし、批判する者、ののしる者達も少なくなく、パウロとその弟子たちは会堂での宣教はやめました。そして、ツラノという人が用いていた講堂を利用させてもらい宣教を続けたのです。



1. パウロの奇蹟を伴う宣教 (10～12節)

①二年の間 (10)「これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシャ人も主のことばを聞いた。」

ツラノの講堂を用いての働きはなんと二年間にも及びました。コリントの地には一年半ほどいて、長期滞在でしたが(18:11)、それ以外はだいたい数か月でした。ところが、このエペソのツラノ講堂での働きは2年も続いたのです。その講堂は使いやすかったのでしょうか。また、エペソの民が福音に心を開かれていたことも留まる要因だったことでしょう。

②パウロの手により (11)「神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行われた。」

神はパウロの手を用いて奇蹟を行われました。それも、「驚くべき」とあるように、人間の想像を越えた奇蹟がなされたのです。それが一回や二回ではなかったと思われます。

③病気は去り (12)「パウロの身に着けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去り、悪霊は出て行った。」

パウロが身に着けていた手ぬぐいや前掛けが外された時にも、奇蹟は起こされたとあります。病人にその手ぬぐいや前掛けを当てると、病人はいやされ、悪霊につかれていた人から悪霊が出て行くという事まで起きたというのです。

2. 祈祷師たちの失態 (13～16節)

①魔よけの祈祷師たち (13-14)「ところが、諸国を巡回しているユダヤ人の魔よけ祈祷師の中のある者たちも、ためしに、悪霊につかれている者に向かって主イエスの御名をととなえ、『パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる』と言ってみた。そういうことをしたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった、」

こうしたパウロの働きをみて、それを真似しようとする者達が現れました。ユダヤ人の魔よけ祈祷師たちでした。祭司長スケワという人の七人の息子たちでした。彼らのすることはユダヤ教魔術と言ってよく、ソロモンの名などの力を借りてまじないをし、諸国を巡回していたのです。ここでは、イエスのことを聞いて、その名によって命ずれば、悪霊が去っていくと思い、実行したのです。

②悪霊の答え(15)「すると悪霊が答えて、『自分はイエスを知っているし、パウロもよく知っている。けれどおまえたちは何者だ。』と言った。」

ところが、「出ていけ」と言われた悪霊の反応が、興味深いです。すなわち、悪霊たちは敵であるイエスやパウロのことはよく知っていると言うのです。しかし、その名前前で命ぜられても、言う人が偽物なら、何も怖くないのでとりついた人から出て行きませぬよ、というわけです

③逃げ出して祈禱師達(16)「そして悪霊につかれている人は、彼らに飛びかかり、ふたりの者を押さえつけて、みなを打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家を逃げ出した。」

そうした上で悪霊は、とりついている人を操つて、その祈禱師たちに飛び掛からせたのです。そして、ふたりの者を押さえつけ、全員を打ち負かして、裸にし、傷を負わせたのです。スケワの子たちは、おののいて、その家から逃げ出して行ったというのです。

3. 力強く成長したエペソの教会(17~20節)

①みな恐れを感じて(17~18)「このことがエペソに住むユダヤ人とギリシャ人の全部に知れ渡ったので、みな恐れを感じて、主イエスの御名をあがめるようになった。そして、信仰に入った人たちの中から多くの者がやって来て、自分たちのしていることをさらけ出して告白した。」

エペソに住むユダヤ人やギリシャ人全部と記されるほどですから、ほとんどの人にパウロを通してなされた奇蹟や、それを真似しようとした人々の失敗のことが伝わりました。そして、信者となる者たちが増えってきました。そして、信ずるようになった者たちの中には、自分をさらけ出して、罪を言い表し、神の前に出る人たちもいたのです。

②書物を焼き捨て(19)「また、魔術を行っていた多くの者が、その書物をかかえて来て、みなの前で焼き捨てた。その値段を合計してみると、銀貨五万枚になった。」

そしてスケワの息子たちの失態から、魔術を行っていた者たちの中からも回心する者が出ました。彼らは自分が使っていた書物を燃やし、その世界から足を洗うことにしたのです。その書物をお金にするならば、合計で銀貨5万枚にもなったというのです。巨額です。それだけ、書物というものが高価だったということでしょう

③驚くほど広まり(20)「こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。」

このようにして、主のことばがエペソ中に、広まっていきました。「驚くど」ということですから、町中にクリスチャンがたくさん生まれていったのです。キリスト教会の力も増していったことでしょう。

《結論》今朝の聖書箇所から三つのことを学びたいと思います。

その第一は、パウロを通して、驚くばかりの奇蹟がなされたという点です。

福音書にある主イエスが数々の奇蹟のわざをなさったのは理解できます。イエスは人としてお生まれくださいましたが、神御自身ですから、奇蹟のわざをなさるのは、ある面では当然のことでした。ところが、パウロはどこまでいっても人間です。そこで、気をつけるべきことは、それをなしたのはパウロの力ではないということです。「神はパウロの手によって奇蹟を行われた」(11節)とある通りです。ペテロにもこんなことがありました。ペテロとヨハネが宮に入ろうとする時に、美しの門の前に座っていた男が、二人に施しを求めたのです。その時、ペテロはその男を見つめて「金銀は私にはない。ナザレのイエス・キリストの御名によって歩きなさい」と言ったのです。すると、その人はまっすぐに立って歩き出したのです。その時にペテロは言いました。「これは人間の力や信仰深さによるものではなく、主イエス・キリストがこの人を立たせたのです。」と語り、キリストを伝えたのです(使徒3章)。神は、パウロの場合もペテロの場合も、彼らを用いて、奇蹟のわざをなされ、キリストを知らせてくださったのです。

第二に、パウロを通してなされた奇蹟のわざと、祈禱師達がイエスの名によって悪霊を追い出そうとしても、それがならず退散したという出来事を巡ってです。これらの出来事から多くの人々が信者となりました。そして、信仰をもった人達の中の、ある人達は自分のしていることをさらけ出して告白したという点です。つまり、自分自身もあの祈禱師達と同じように、神に対して不遜な思いをもって、いたことを告白する人もいたでしょう。またある人は、その出来事を通して、自分の日頃の不信仰に伴う行動を思い出して、それをさらけ出したのです。また、魔術を行っていた多くの人々が、関連書物をもってきて、それを焼き捨てたというのです。恥ずかしいことを告白するには勇気が必要です。また、高価な書物を捨てるのは勿体ないと思います。しかし、この人たちはキリストを信じる時に、捨てるべきものを捨て、恥も外聞もかなぐり捨てて、主なる神の前に出たのです。主に真剣に向かっているところから、教えられていきましょう。

第三に、20節にある「主のことばが広まった」という点です。福音が広まったというのでも、キリストのことが広まったでもなく、「主のことばが広まった」というのです。ここで覚えたいことは、「使徒の働き」では、聖霊の働きについて随所に記されていて重要です。しかし、もう一方で、御言葉の力が強調されていることをも見落としてはなりません。それはとても大事です。ここには、主のことばが広まるということが記されています。主のことばとは、私たちも手にしている旧新約聖書です。パウロが宣教している時代に、イエス・キリストのことが文書化され始めていました。マルコやマタイによる福音書が文書となり、パウロによって記された書簡も文書化され始めていました。パウロは聖書のことばは神の靈感によって記されたこと証しています(第二テモテ3:16)。ここで、主のことばは広まっていったというのは、聖書の言葉が、人々のうちにとどまり、キリストが生きて働き、広まっていったということです。

クリスチャン一人一人が、神の御言葉によって生きることが、隣の人に御言葉が伝わることにつながります。罪を示され、捨てるべきものを捨ててキリストに従う道をとることになるのです。御言葉に生きるものとさせていただきます。